

## 岸岳古窯跡（道納屋窯跡） （きしだけこようあと（みちなやかまあと））

岸岳山麓に点在する初期段階の唐津焼を焼成した窯跡群は総称して「岸岳古窯群」と呼ばれている。そのうち道納屋窯跡は、岸岳から南西方向に派生する分岐脈の尾根東側の標高49m～62mに位置し、等高線にほぼ直交するように造られている。窯跡の水平全長は34.5mで、現在確認されている「岸岳古窯群」の中では最大であり、焼成室は14室あったと考えられる。

出土した製品は全て陶器であり、碗・皿類を中心に、壺・甕・小皿・すり鉢・向付・火入などがある。この中でも天目形碗が多く作られていたことは注目される。また、窯の構造及び出土遺物の形態や歴史的背景などから、1590～1600年代の極めて短期間に操業していたと考えられる。

岸岳古窯群のうち、飯洞甕上窯跡・下窯跡、帆柱窯跡、皿屋窯跡、皿屋上窯跡は国指定肥前陶器窯跡に指定されている。

平成17年11月7日 県史跡（窯跡）指定  
唐津市相知町佐里上

分野 歴史

地域 相知

◎地図・写真・統計資料など



岸岳古窯跡（道納屋窯跡）

（『佐賀県の文化財』より）

◎引用・参考文献（出典）

◆『佐賀県の文化財』

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ  
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：  
[http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts\\_lib/index.html](http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html)